

# スイートコーンの需給動向

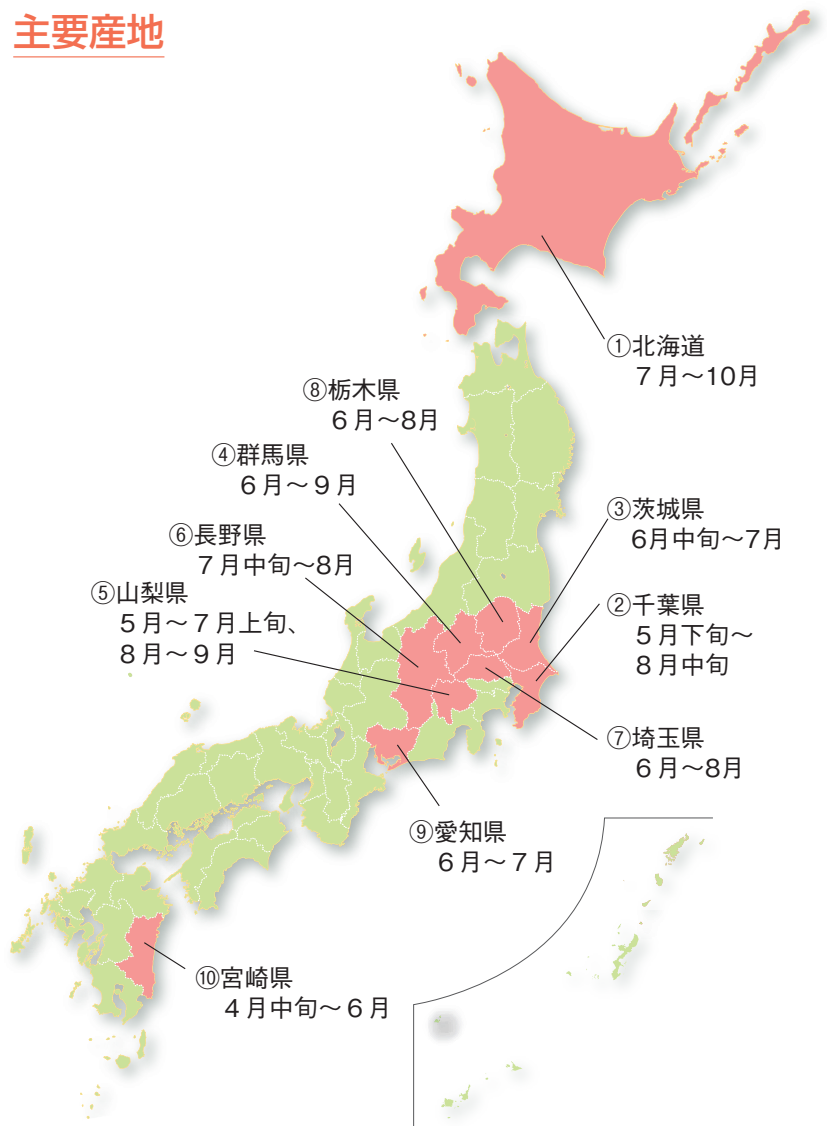
## 主要産地



スイートコーン（宮崎産）



ベビーコーン（愛知産）



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成29年産）」

注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

トウモロコシはイネ科の植物で、原産地はメキシコから南米にかけてだと言われている。栽培の歴史は古く、マヤ、アステカ文明までさかのぼる。1492年にアメリカ大陸に到達したコロンブスがヨーロッパに持ち帰り、世界中に広まることとなった。日本では明治時代の北海道開拓が本格的な栽培のきっかけとなった。

トウモロコシは、米、麦と並ぶ世界三大穀物のひとつで、主に穀物として利用される硬粒種（フリント種）、家畜飼料用の馬歯種（デント種）、ポップコーン用の爆粒種（ポップ種）、スイートコーン（未成熟とうもろこし）として生食用や加工用に使われる甘味種（スイート種）などの種類がある。茎葉は堆肥や家畜の飼料としても利用される。

## 作付面積・出荷量・単収の推移

平成29年の作付面積は、2万2700ヘクタール（前年比94.6%）と、前年に比べてやや減少した。

上位5県では、

- ・北海道 7,990ヘクタール（同 87.8%）
- ・千葉県 1,770ヘクタール（同 100.0%）
- ・長野県 1,270ヘクタール（同 100.0%）
- ・茨城県 1,250ヘクタール（同 104.2%）
- ・群馬県 1,200ヘクタール（同 100.0%）

となっている。

平成29年の出荷量は、18万6300トン（前年比123.6%）と、前年に比べて大幅に増加した。

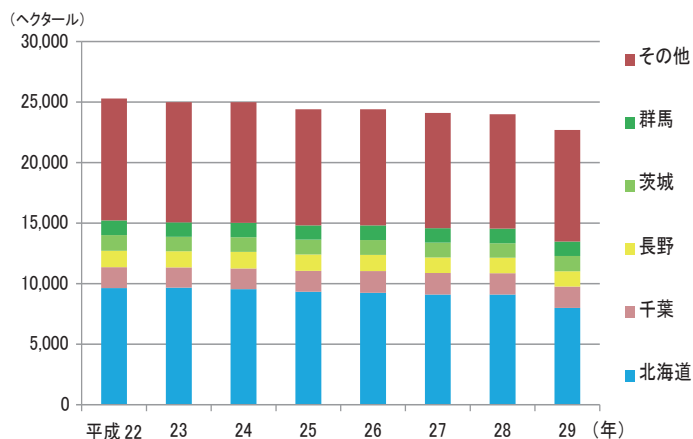
上位5県では、

- ・北海道 90,800トン（同 152.6%）
- ・千葉県 14,100トン（同 93.4%）
- ・茨城県 10,100トン（同 102.0%）
- ・群馬県 8,620トン（同 101.7%）
- ・山梨県 7,530トン（同 97.3%）

となっている。

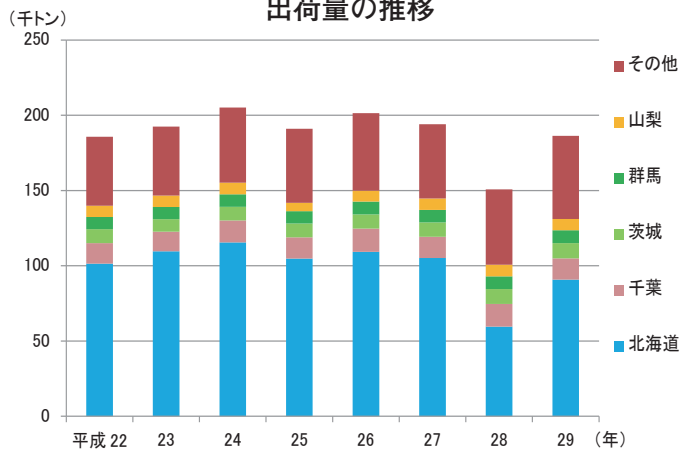
出荷量上位5道県について、10アール当たりの収量を見ると、茨城県の1.22トンが最も多く、次いで山梨県の1.20トン、北海道の1.18トンと続いている。その他の県で多いのは、香川県の1.33トン、埼玉県の1.26トンであり、全国平均は1.02トンとなっている。

### 作付面積の推移



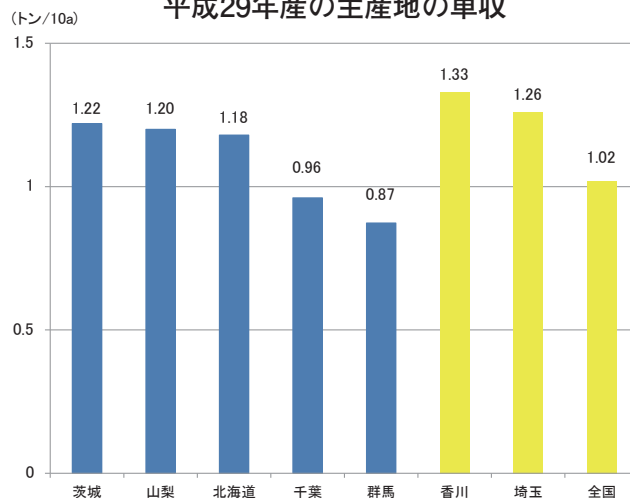
資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成29年産）」

### 出荷量の推移



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成29年産）」

### 平成29年産の主産地の単収



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（平成29年産）」

注：黄色は、出荷量上位5道県以外で単収が多い2県および全国平均。

## 作付けされている主な品種等

日本への導入当初から多数の交雑品種が開発されており、青果用としては、甘味が強く、日持ちの良い品種が好まれている。品種の数が多く、産地も力を入れていることもあってゴールドラッシュや味来など、品種名がブランドとして知られるのも特徴である。実が黄

色いものが主流だが、グラビス、ミルフィーユは黄色と白の粒が混じるバイカラー種である。通常、収穫は上から順に熟した実をから収穫するが、2番目以降の穂を若採りしてベビーコーンやヤングコーンとしても出荷されている。

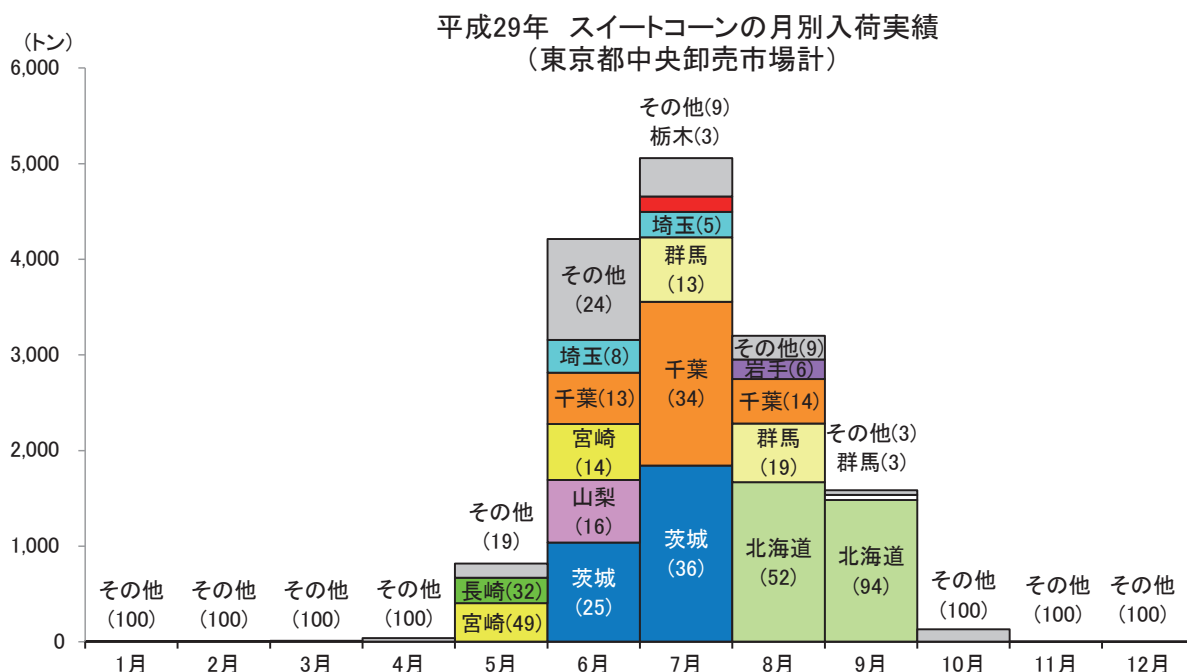
都道府県名	主な品種
北海道	ゴールドラッシュ、 <sup>めくみ</sup> 恵味ゴールド、恵味スター☆、ピーター235
千葉県	ゴールドラッシュ、 <sup>みらい</sup> 味来
長野県	ゴールドラッシュ、ミルフィーユ、グラビス
茨城県	味来、ゴールドラッシュ
群馬県	ゴールドラッシュ、恵味、味来

資料：関係者聞き取りにより農畜産業振興機構作成

## 東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（平成29年）を見ると、5月から宮崎産、長崎産といった九州からの入荷が始まり、6月以降は茨城産、山梨産、千葉産、埼玉産といった

近在産地からの入荷が加わり、ピークは7月となる。8月以降は北海道産や岩手産など北からの入荷が増えるが10月以降は入荷が激減する。



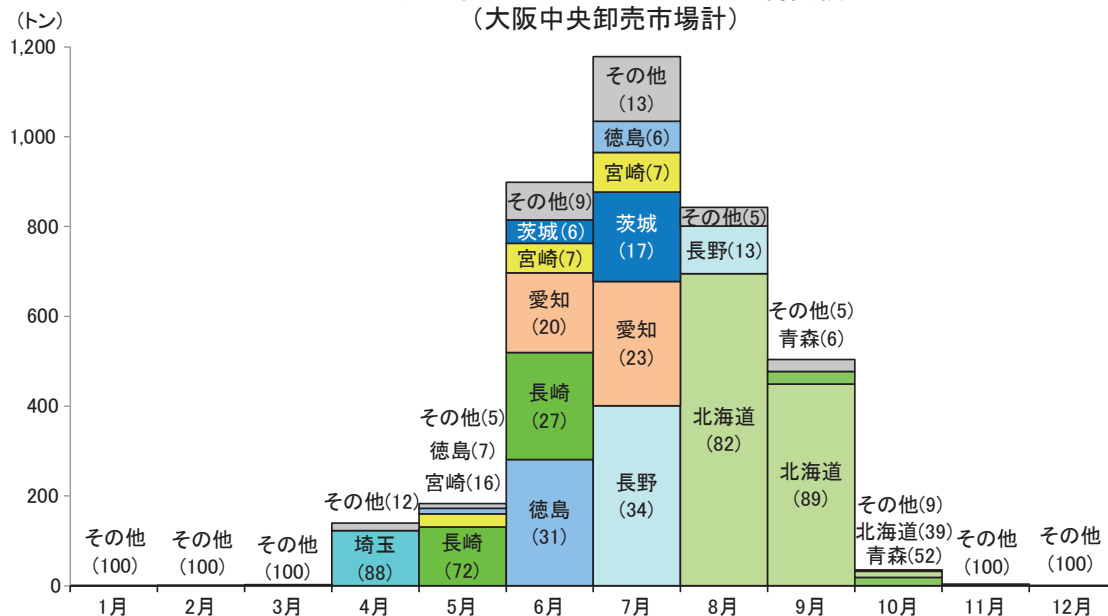
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成29年東京都中央卸売市場年報）

注：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（平成29年）を見ると、4月に埼玉産が見られ、5月には長崎産を中心に宮崎産や徳島産の入荷があった。6月には愛知産、茨城産も加わ

り入荷量は急増し、ピークとなる7月には長野産も入荷する。8月以降は北海道産が主流となり、10月には入荷が激減する。

平成29年 スイートコーンの月別入荷実績  
(大阪中央卸売市場計)



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：平成29年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）

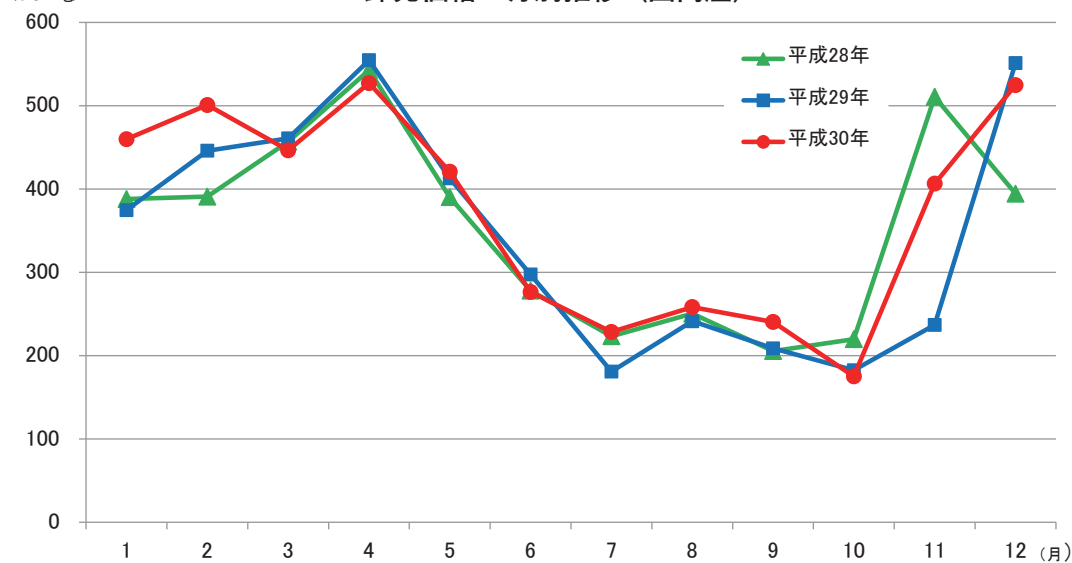
注：（）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

## 東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場における平成30年の国内産スイートコーンの価格は、175~527円（年平均264円）の間で推移した。入荷

量が増える7月から10月にかけては200円前後で推移し、11月以降は大きく値上がりする傾向が見られる。

卸売価格の月別推移（国内産）

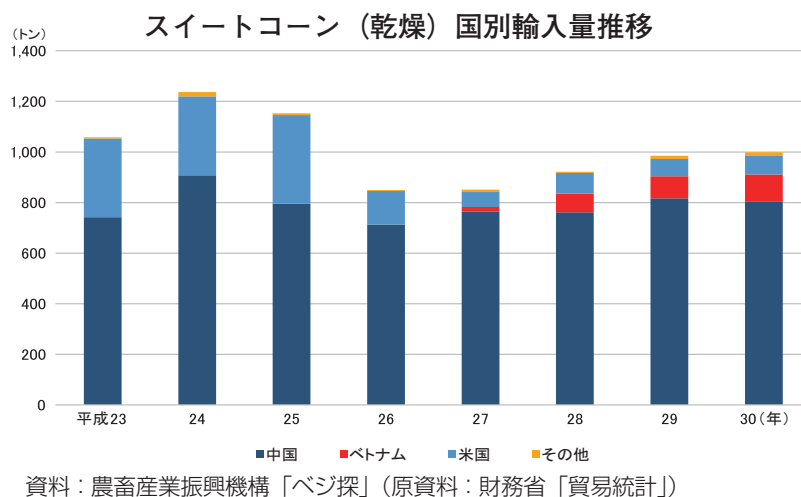
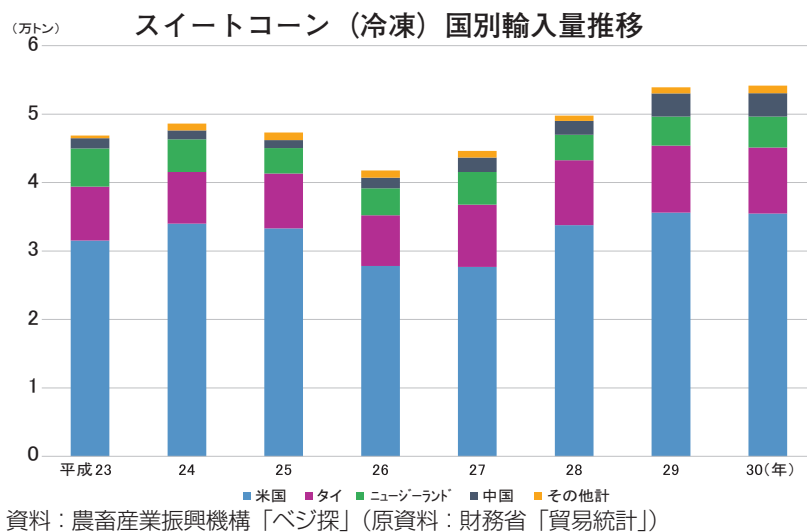
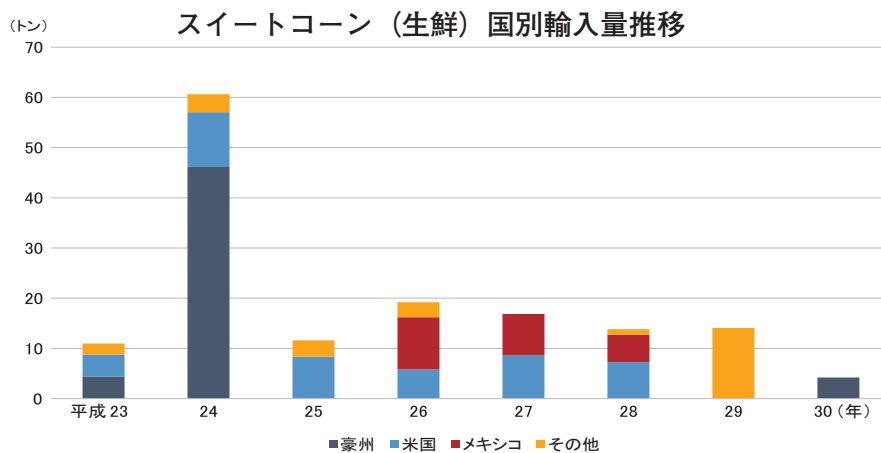


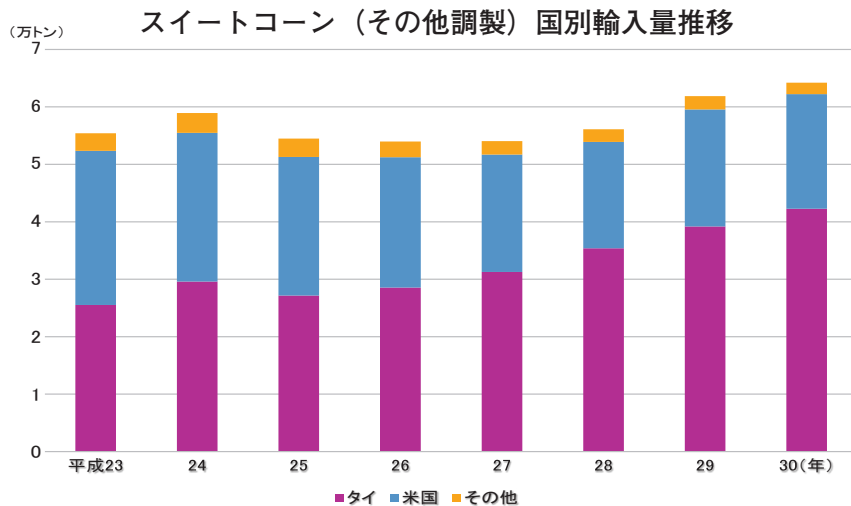
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

## 輸入量の動向

スイートコーンの輸入量は、生鮮品は平成24年に一時的に豪州産が急増したが、その後、大きな動きはなく30年は10トンにも達していない。一方で、冷凍品は米国を中心にタイ、ニュージーランドからの輸入がみられ、近年

は5万トン前後で推移している。乾燥品は中国が中心で、近年はベトナム産が増えている。その他調製品については、5万～6万トンで安定して推移しており、輸入国はタイ、米国となっている。





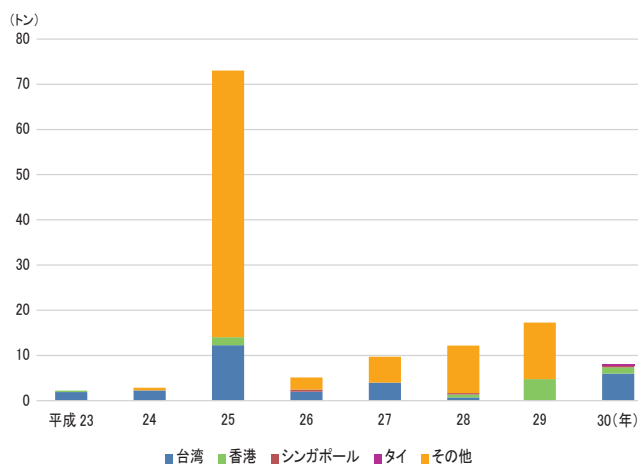
資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

## 輸出量の動向

冷凍スイーツコーンの輸出は25年に米国向けが急増したが、近年は10トン前後で推移している。その他調製品については、27

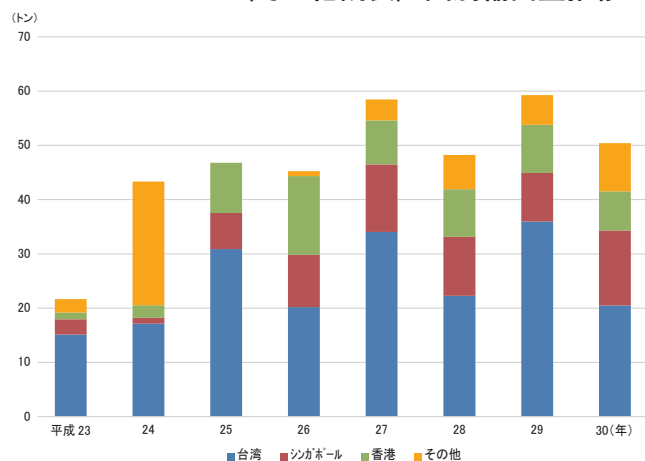
年以降、安定的な推移が見られ、台湾を中心としてシンガポール、香港向けが多い。

### スイーツコーン（冷凍） 国別輸出量推移



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

### スイーツコーン（その他調製） 国別輸出量推移



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

## スイーツコーンの消費動向

スイーツコーンの旬はなんといっても夏である。茹でたスイーツコーンはおやつやサラダ、天ぷらなど、幅広く利用できるほか、バーベキューなどで炭火焼きにするのも楽しみである。鮮度が非常に落ちやすく、時間と共に風味が落ちるので購入後はすぐに調理し、調理後はラップなどで包んで冷蔵庫で保管したい。ひげ一本一本に実が繋がっているのも、ひげが茶褐色で多いものは実が充実している

サイン。皮は乾燥を防ぐので、調理する直前までつけておくほうが好ましい。

栄養成分としては、糖質が多くエネルギー源となるほか、ビタミンB群、ビタミンE、カリウム、マグネシウムなどをバランスよく含み、また、食物繊維が豊富なので便秘予防も期待できる。とうもろこし茶など飲用にも使われるほか、ひげ（絹糸）は生薬としても知られている。